

- 問1 安政の五カ国条約の締結によって日本が本格的に開国した後、1860年代の貿易統計において、日本の輸出入額の過半数を占めるようになった国はどこですか。なお、この国は1860年に約55%であったシェアを、1865年には約86%にまで拡大させています。 (2018年 岐阜県公立入試 類似)
1. オランダ 2. アメリカ 3. フランス 4. イギリス
- 問2 1854年にペリーと結んだ日米和親条約から、1858年に結ばれた条約に至るまでの歴史的な経緯を説明したものとして適切なものはどれですか。 (2020年 香川県公立入試 類似)
1. ロシアのプチャーチンが長崎に来航し、アメリカよりも先に貿易の権利を得るために大規模な通商交渉を江戸幕府に申し入れた。 2. ペリーが再び浦賀に来航し、軍事力を背景に貿易を開始するための具体的な港の選定と関税率の決定を迫った。 3. 岩倉具視が全権大使としてアメリカへ渡り、貿易の拡大を条件として、それまでの不平等な条項をすべて撤廃することに成功した。 4. アメリカ総領事のハリスが下田に着任し、清（中国）がアロー戦争で敗れた状況などを伝えて、通商条約の締結を強く求めた。
- 問3 1854年にアメリカのペリーと江戸幕府との間で結ばれた日米和親条約では、アメリカ船に薪水や食料を補給することを目的として、2つの港を開くことが決められました。そのうちの1つは静岡県の下田ですが、もう1つ、北海道の南部に位置する港はどこですか。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
1. 新潟 2. 横浜 3. 函館 4. 長崎
- 問4 19世紀のアジアにおいて、欧州列強による支配が強まる中で起きた出来事について、インドでの事例として正しい名称を選びなさい。 (2022年 京都府公立入試 類似)
1. 権利の章典 2. フランス人権宣言 3. インド大反乱 4. ロシア革命
- 問5 日米修好通商条約の締結後に本格化した幕末の貿易において、1865年当時の統計では輸出額の約8割をある品目が占めていました。この品目の大量輸出が国内の経済や社会に与えた影響について、最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 佐賀県公立入試 類似)
1. 生糸が大量に輸出されたことで国内での供給が不足し、関連する諸商品の価格が急激に上昇する物価騰貴を招いた。 2. 茶の輸出が急増したことで農村の現金収入が増え、幕府に対する農民の支持が急速に高まった。 3. 綿織物が大量に輸出されたことで国内の綿産業が急速に発展し、幕府の財政難が解消されるきっかけとなった。 4. 武器が大量に輸出されたことで諸藩の軍勢力が強化され、国内の治安が一時的に安定した。
- 問6 19世紀におけるイギリスとインドの貿易関係について、産業革命の影響をふまえて述べた文として最も適当なものはどれですか。 (2018年 北海道公立入試 類似)
1. イギリスはインドから綿花を輸入し、工場で大量生産した綿織物をインドへ輸出した。 2. イギリスはインドから生糸を輸入し、伝統的な技術で作られた絹織物をインドへ輸出した。 3. イギリスはインドからアヘンを輸入し、代わりに中国産の茶をインドへ輸出した。 4. イギリスはインドから羊毛を輸入し、機械化された工場で生産した毛織物をインドへ輸出した。
- 問7 幕末の開国にともなう貿易の開始は、日本の社会に大きな混乱をもたらしました。当時の物価と庶民の生活について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
1. 幕府が物価を安定させるために、生活必需品をすべて買い上げて庶民に安く配布する政策をとった。 2. 輸出が活発になったことで、都市部の労働者の賃金も物価上昇を上回るペースで引き上げられた。 3. 横浜での貿易開始後、国内の品不足から物価が急騰したが、賃金が上昇しなかったため庶民の生活は苦しくなった。 4. 外国から安くて質の良い商品が大量に輸入されたため、物価が下落して庶民の生活は以前より豊かになった。
- 問8 1858年に、大老の井伊直弼が天皇の許可を得ないままアメリカと調印した、貿易の開始を目的とした条約は何ですか。 (2020年 香川県公立入試 類似)
1. 日米和親条約 2. 日米安全保障条約 3. 日米修好通商条約 4. 日朝修好条規
- 問9 1858年、江戸幕府の大老である井伊直弼が、朝廷の許可（勅許）を得ないままアメリカと結んだ条約について、その内容と性質を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2025年 千葉県公立入試 類似)
1. イギリスとの軍事同盟を結び、ロシアの南下政策に対抗することを目とした。 2. 下田と箱館の2港を開港し、アメリカ船に食料や石炭を供給することを約束した。 3. 日本が清の独立を承認し、領事裁判権を相互に認め合う対等な内容であった。 4. アメリカに領事裁判権を認め、日本に関税自主権がない不平等な内容であった。
- 問10 1853年、アメリカのペリー率いる艦隊（黒船）が来航し、江戸幕府に対して開国を求めました。このとき、艦隊が最初に到着した、関東地方の三浦半島に位置する場所はどこですか。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)
1. 下田 2. 新潟 3. 浦賀 4. 函館
- 問11 一八五三年にペリー率いる「黒船」が浦賀に来航した際、アメリカ側が日本に対して開国を求めた主な背景や理由として、適切な説明はどれですか。 (2022年 滋賀県公立入試 類似)
1. ロシアの南下政策に対抗するため、日本と軍事同盟を締結し、三浦半島にアメリカ海軍の基地を設けるため。 2. キリスト教の布教を全国で認めさせることにより、日本の封建的な社会構造をアメリカ流に近代化するため 3. 日本の良質な金や銀を安く買い入れ、アメリカ国内で深刻化していた経済恐慌を解決するため。 4. 太平洋での捕鯨船の保護や、中国に向かう蒸気船の燃料となる石炭・食料の補給拠点を確保するため。
- 問12 1825年に出された異国船打払令から、1854年の日米和親条約締結に至るまでの期間に、清（中国）で発生した出来事について説明したものとして正しいものはどれか。 (2023年 徳島県公立入試 類似)
1. 朝鮮半島の支配権をめぐって日本と清の間で戦争が起き、日本が勝利した。 2. アヘンの密輸問題をめぐってイギリスと清の間で戦争が起き、清が敗れた。 3. 清の内部で洪秀全が「太平天国」を建国し、大規模な反乱が起きた。 4. 清の排外主義的な団体が北京の公使館を包囲し、連合軍に鎮圧された。
- 問13 南北戦争において、リンカン大統領が率いる北部の勢力が掲げていた、社会制度および経済政策の方針として適切なものはどれですか。 (2020年 三重県公立入試 類似)
1. 奴隷制の廃止を掲げる一方で、経済面では海外製品を広く受け入れる自由貿易を求めた。 2. 奴隷制の拡大に反対し、国内の工業を発展させるために保護貿易を主張した。 3. 奴隷制を全面的に容認し、イギリスとの同盟を深めるために自由貿易を推進した。 4. 奴隷制を維持することで農業生産力を高め、自由貿易によって海外へ輸出することを主張した。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 イギリス	日米修好通商条約をきっかけに日本は開国しましたが、実際に貿易の主導権を握ったのは、当時「世界の工場」と呼ばれた圧倒的な工業力を誇るイギリスでした。イギリスは横浜を主な拠点として、毛織物や綿織物を日本に輸出し、日本からは生糸などを輸入することで、1860年代半ばには日本の貿易額の8割以上を占める最大の貿易相手国となりました。
問2	答え 4 アメリカ総領事のハリスが下田に着任し、清（中国）がアロー戦争で敗れた状況などを伝えて、通商条約の締結を強く求めた。	日米和親条約に基づいて下田に着任したハリスは、当時の清がイギリスなどに敗れた情勢を伝え、日本が不利な状況に陥る前にアメリカと条約を結ぶよう圧力をかけました。これが1858年の通商条約締結へとつながる大きな要因となりました。
問3	答え 3 函館	日米和親条約は、1853年のペリー来航を受けて翌1854年に締結されました。この条約によって、それまで鎖国を行っていた日本は、静岡県の下田と北海道の函館（当時は箱館）の2港を、アメリカ船の薪水や食料の補給地として開港しました。新潟、横浜、長崎などは、その4年後の1858年に結ばれた日米修好通商条約によって開港された、貿易を目的とした港です。
問4	答え 3 インド大反乱	19世紀の世界では、産業革命を成し遂げた欧米諸国がアジアやアフリカへ進出し、植民地を広げていきました。インドでは1857年に、それまでのイギリスによる過酷な支配や文化への不理解に対する不満が爆発し、インド大反乱が起こりました。これは単なる兵士の反乱にとどまらず、インド全土に広がる民族的な抵抗運動となりました。
問5	答え 1 生糸が大量に輸出されたことで国内での供給が不足し、関連する諸商品の価格が急激に上昇する物価騰貴を招いた。	開港後の日本において、生糸は国際的な需要が非常に高く、輸出額の約8割を占める最大の輸出品となりました。しかし、国内の生産体制が整わないまま大量の生糸が海外へ流出したため、国内市場では生糸が極端に不足しました。その結果、生糸を原料とする製品だけでなく、諸商品の価格が連動して急上昇する「物価騰貴」が起こり、人々の生活を圧迫して社会不安を増大させました。
問6	答え 1 イギリスはインドから綿花を輸入し、工場で大量生産した綿織物をインドへ輸出した。	産業革命によって綿工業が飛躍的に発展したイギリスは、原料である綿花をインドやアメリカなどから輸入し、製品化した綿織物を世界中に輸出しました。以前はインド産の綿織物が人気でしたが、機械生産による安価なイギリス製品が逆にインド市場を席巻することになりました。毛織物は産業革命以前のイギリスの主力産業であり、絹織物は中国や日本などの主要産品であるため誤りです。
問7	答え 3 横浜での貿易開始後、国内の品不足から物価が急騰したが、賃金が上昇しなかったため庶民の生活は苦しくなった。	自由な貿易が始まったことで、国内の物資が海外へ流出し、激しいインフレーション（物価高騰）が起こりました。特に米などの生活必需品の価格が数倍に跳ね上がった一方で、労働者の所得（賃金）は変わらなかったため、都市の貧困層を中心に生活が成り立たなくなりました。これが「打ちこわし」や「世直し」を求める社会運動の背景となりました。輸出増が直ちに庶民の好景気につながったわけではありません。
問8	答え 3 日米修好通商条約	1854年に結ばれた日米和親条約は開国と燃料・食料の補給を主眼としていましたが、1858年のこの条約はアメリカ側の強い要求により、本格的な貿易（通商）を開始するために締結されました。勅許を得ない「無勅許調印」が行われたことも大きな特徴です。
問9	答え 4 アメリカに領事裁判権を認め、日本に関税自主権がない不平等な内容であった。	日米修好通商条約は、貿易を開始するために結ばれた条約ですが、日本に在留する外国人が罪を犯しても日本の法律で裁けない「領事裁判権（治外法権）」を認め、輸入品の関税率を自国で決める「関税自主権」が日本にないなど、日本にとって不利な不平等条約でした。井伊直弼が勅許を得ずに調印したことは、後の尊王攘夷運動を激化させる要因となりました。
問10	答え 3 浦賀	1853年にアメリカの東インド艦隊司令官ペリーが、大統領の国書を携えて到着したのが三浦半島の浦賀（現在の神奈川県横浜浦賀市）です。この出来事は長年続いた「鎖国」体制を揺るがす大きな転換点となりました。選択肢のうち、下田と函館は翌1854年に結ばれた日米和親条約によって開港された場所であり、新潟は1858年の日米修好通商条約によって開港が決められた港の一つです。
問11	答え 4 太平洋での捕鯨船の保護や、中国に向かう蒸気船の燃料となる石炭・食料の補給拠点を確保するため。	産業革命を経て工業化したアメリカは、海外市場として中国（清）との貿易を重視していました。当時の蒸気船は燃費が悪く、航路の途中で石炭や水、食料を補給する場所が必要不可欠でした。また、北太平洋での捕鯨活動も盛んであったため、漂流民の保護や寄港地の確保を目的として、ペリー率いる黒船来航により日本へ開国を強く迫りました。
問12	答え 2 アヘンの密輸問題をめぐってイギリスと清の間で戦争が起き、清が敗れた。	1840年に始まったアヘン戦争は、江戸幕府が異国船打払令によって外国船を排斥していた時期から、開国へと舵を切るきっかけとなった日米和親条約の間に位置する重要な出来事である。大国である清がイギリスに敗北したという報せは、当時の日本に大きな衝撃を与え、幕府の対外政策に影響を及ぼした。
問13	答え 2 奴隷制の拡大に反対し、国内の工業を発展させるために保護貿易を主張した。	北部は資本主義的な工業化が進んでおり、自国の未熟な産業を保護するために高い関税をかける保護貿易を必要としていました。また、自由な労働力を確保する観点からも奴隷制には反対の立場をとっていました。一方の南部は農業中心で、奴隷制の維持と自由貿易を求めているため、これらの方針の違いが激しい対立を生みしました。